

熱川温泉病院

土屋 花実(理学療法士 副主任)

- 功 績 第26回静岡県理学療法学術大会において優秀演題に選ばれ、当院の知名度及び評価向上に貢献した功績
- 推 薦 者 小山内 隆(リハビリテーション部長)
- 推 薦 理 由 主任の土屋は几帳面な性格で、責任感が強く、安心して仕事を任せられる職員です。今回の学術大会で発表者としてだけでなく、研究チーム内で実験や検討会などの活動で主導的な役割を果たしてくれました。受賞により当院の地域へのアピールと評価向上に大いに寄与しましたので、是非理事長賞にご推薦申し上げます。

内 容

先日静岡市のグランシップで開催された第27回静岡県理学療法学術大会総会において、前回大会で副主任のPT土屋が発表した演題が優秀演題に選ばれ(優秀演題は全体で4演題のみ)、その表彰式が行われました。テーマ『座面の質の違いが立ち上がり動作時の下肢の筋活動に及ぼす影響』は、下肢の筋力強化で使われることが多い「立ち上がり訓練」において、マットレス上とプラットフォーム上の異なる座面で行った場合に、下肢筋力強化に効果の違いがあるかを実験した研究で、3種類の椅子による先行研究はありますが、マットレスとプラットフォームを比較したものはありませんでした。

研究を開始した2021年当時、コロナ禍で感染対策のため2階のリハビリセンターで入院患者さんを集めてプラットフォーム上で訓練することができなくなり、病室のベッド(マットレス)上での訓練が多くなったことで、効果に疑問をもつセラピストが多かったことがテーマ選定のきっかけでした。

8名の成人男性を被験者にして利き足の大殿筋、大腿直筋、前脛骨筋、腓腹筋(内側頭)の最大筋活動を測定した結果、全ての部位についてマットレス上で訓練をした方が最大筋活動の値が高いことが分かり、有意差が認められました。コロナ禍におけるタイムリーなテーマで、感染対策とリハビリの効果を両立するための端緒となる研究であった点が審査員の皆さんに評価されたのではないかと思います。当院リハビリテーション部の日頃の問題意識と研究スキルの高さが受賞の要因であり、充実したリハビリテーションが強みの当院のアピールに繋げることができました。